

## 伊勢湾台風—高まる再来リスク

毎年9月26日になると、伊勢湾台風についてレポートしてきた。NHKのサイトに表題が掲載されていたので、抜粋して紹介したい。

1959年9月26日午後6時過ぎに上陸した伊勢湾台風。被害は全国各地に及び、特に伊勢湾では記録的な高潮が発生して「暴走木材」が市街地を襲いました。“最強クラス”、“明治以降、最悪の台風災害”ともされる伊勢湾台風。当時、何が起こったのか。そして今後、伊勢湾台風に匹敵する危険な台風が再び日本を襲うリスクについてもまとめました。

伊勢湾台風は、その名を冠する伊勢湾周辺を中心に、北海道から四国にかけて被害をもたらしました。消防庁のまとめによると、死者・行方不明者は全国で5098人にのぼり、詳しい記録が残っている明治以降では最悪の台風被害となりました。中でも愛知県と三重県の被害が深刻で、内閣府の報告書によると全体の死者・行方不明者の約8割がこの2県に集中したということです。9月26日午後6時ごろ、伊勢湾台風は929ヘクトパスカルという歴史に残る記録的な勢力で和歌山県潮岬に上陸しました。伊勢湾台風の勢力を示す特徴のひとつが暴風域の巨大さです。気象庁の資料によると、上陸9時間前の時点でも暴風域の直径は700キロ。上陸時もほぼその状態を保っていたと考えられます。伊勢湾台風と比較的近い針路を通り、関西空港での浸水被害やタンカーの連絡橋衝突事故などを引き起こした2018年の台風21号と比べると伊勢湾台風の暴風域の直径は2倍以上とされています。

特に台風の中心に近い場所では記録的な暴風となり、愛知県渥美半島の伊良湖や兵庫県洲本市では最大風速が40メートルを超えました。このほかにも名古屋市で37メートルなど、各地で猛烈な風が吹きました。愛知県の小牧飛行場では、建物が倒壊したり、屋根が破損したりするなどの被害があり、飛来物によって死者も出たということです。また、台風の中心からやや離れた場所でも暴風となり、岡山県奈義町では、庁舎のガラスが破損したり、電柱が傾いたりする被害が出たと記録されています。

愛知県や三重県が面する伊勢湾では、猛烈な風で大量の海水が沿岸に吹き寄せられるなどして記録的な高潮が発生しました。気象庁の報告書によると、伊勢湾台風の死者・行方不明者の7割が高潮によるものだということです。伊勢湾の最も奥に位置する名古屋港では、台風上陸後の午後9時半ごろに3.89メートルの高潮が観測され、大量の海水が堤防を破壊したり、乗り越えたりして市街地に押し寄せました。さらに名古屋港の「貯木場」から、長さ5メートル、重さ数トンにもなる木材が市街地に向かって大量に流れ出し、住宅を破壊。被害をより甚大にしたことから、報告書や当時の新聞では「暴走木材」「集団殺人犯」などと呼ばれました。高潮の被害は、愛知県や三重県の沿岸各地で発生し、濃美平野では海岸から10キロ以上も離れた場所にまでおよびました。

(2023年9月26日)